

# 《字》人体書道写真展

## モデルたちの言葉

2026年5月29日(金曜日)  
オープニング 午後6時半～9時半

「私たちの魂が作品の中で冒険する、それはなんと美しいことだろう。」

身体が経験するすべての出来事は、人生においてかけがえのない体験だ。開幕演出もまた、あなたに替えの利かない観覧体験をもたらしてくれることを願っている。香港のボディモデル協会がお届けする《字》(Characters)マルチメディア芸術展覧会では、書道・写真・映像の融合を通じて、芸術創作における人体モデルの役割を新たに解釈する。

開幕演出《字》は十狼がリードし、彼とモデルたちが数ヶ月をかけて身体表現、朗読、文字の書写といった身体をテーマにした探求を重ねてきた。

開幕ではともに集団演出を披露する。展覧会は、写真家 Joshua Lee・Linda Cheung・Harry Lam と書道家 Jonathan Yu が複数の人体モデルと共同制作し、物語の器としての身体の無限の可能性を表現する。

---

### モデルたちの言葉

#### 川流 \_\_ Andrew

川流不息、海へと流れ、  
地形に沿い、形を変えながら。  
水は命の希望を育み、  
無限の可能性と果てしない夢を抱く。  
この世のすべての命は水の恵みを必要とし、  
流れる水は健康を象徴する。  
しかし水には両刃の剣としての側面もあり、  
命を与えることもあれば、危険をもたらすこともある。  
均衡を保ってこそ、安らかに流れることができる。  
多すぎても少なすぎても、何事もうまくは運ばない。  
この水の流れを大切にしながら、  
命の旅路を自由に羽ばたこう。

/

## 本能と動と植 \_\_ Charlie 十狼

動物は本能的に反応し  
植物は本能的に光へと向かう  
人は本能的に繋がりを求め  
本能的に行動する  
生きることを第一の目標として  
世俗の倫理に縛られることなく

動植物と同じように  
人体にも本能がある  
やはり生きることを拠り所として  
しかし同時に自分自身によって制限され  
思考に支配される  
「本能的に」本能を抑圧する

悪いことではない  
ただ、それが余りにも頻繁すぎる  
特に身体に関わるときには

身体の本能に従うことが  
動植物の日常  
できる限り身体の本能に従うことが  
私の日常  
私の愛好  
私の目標  
私の

/

## 感性 \_\_ Michelle

官能的な人間であることはなんと美しいことか——  
自分の本能に従うことはなんと美しいことか。

燃えることなく温もりを感じるほどの近さで、  
肌に寄せられたマッチのような感覚。

口の中でとろけるダークチョコレートのような味わい。

安心してベッドに包まれながら聴く、  
激しい雨音のような響き。

官能性は、水中を動くように——  
ゆっくりと、流れるように、  
自分が生み出す波紋のひとつひとつを意識しながら——  
あなたを動かす。

それこそが私たちを人間たらしめるもの：  
さらけ出されていてながら安全で、  
地に足がつきながらも力に満ちている。

/

### 「武」と「舞」\_\_ Mann

「武」と「舞」は、私と切り離せない関係がある：  
一方は私の姓であり、もう一方は私の趣味だ。  
舞にはさまざまな種類がある。幼い頃の記憶の中にはすでに、  
両親がダンスフロアに立ち、軽やかに回転しながらワルツを踊る姿がある。  
時には速く、時にはゆっくりと数回転し、  
優雅さの中にどこか自由奔放さをたたえ、  
互いに目を合わせて微笑みながら、  
温かくしっかりと寄り添う二つの影が踊り合う日々。

一瞬の静止、そして次の一步、  
脚を広げ、腰を伸ばし、音楽が鳴り響く、  
速く、緩やかに変化しながら、フロアの隅々へと流れ、  
時に親密に、時に情熱的に、  
幸福とはこういうものだと感じさせてくれる。

踊りにも多くの種類があるが、  
最後に私が選んだのはタンゴとの出会いだった。  
そして最も原始的で情熱的なアルゼンチン・タンゴを心の拠り所とした！  
それはあらゆる感情を揺り動かし、  
心が高鳴るたびに、パートナーの体温を感じることができる。  
手と手を握り合い、胸と胸を寄せ合い、  
わずかな空間の中で、幸せと喜びの訪れを祈る。  
ふとした Giro でさえ人を夢中にさせ、  
合わせることができたなら、必ず感嘆の笑みが浮かぶ。  
好きな人と心身で触れ合い、喜びに満ちて忘れられない。  
(タンゴとは極めて危険な恋人への贈り物だと言えよう！)

※ 広東語では、「武」と「舞」は同じ発音で、いずれもモウと読む。

/

氣 \_\_ 小丁

息を吸って、吐く。気が体の中を巡る  
体内で最も抽象的な存在かもしれない

吐いて吸って、吐いて吸って  
私たちは万物と共に動いている  
しかし  
私の息はいつも完一結一でき一な一い

一吐き一吸い一吐き一吸い一吐き一吸い  
吐吐吐吐吐一吸一吐吐吐吐吐一吸一  
二三四吐二三四吸二三四二四三  
吐く、違う;二三四吐く、三二一吐く、違う  
吐く、違う;吐く違う、  
吐いてお腹を引っ込め、吸ってお腹を膨らませ、吐く一吸う一  
二三四吸、四二三

プッ  
沈む  
沈む  
沈む

わ一つ！わ一つ！わ一つ～  
浮かぶ  
はっ～はっ～はっ～吐く一  
はっ～はっ～はっ～吐く一

/

革命 \_\_ Christine

あの日、私たちの息には炎が宿り、  
肋骨の間の震えが、  
周囲の灼熱の熱さを忘れさせた。  
熱は路地を駆け抜け、  
光の束で旗を織り成した。  
私は落ち着きなく、これがずっと続くと信じていた。  
しかし光は徐々に翳り、  
煙霧の中へと滑り込み、  
影さえも元の姿を忘れてしまうまで。

離れることは、踏み出す一歩ではなく、  
ゆっくりと溶けていく過程だった。  
見よ、煙霧は今散っていく。  
聴け、風は見知らぬ言葉を語りかける。  
私は鏡の中に生きることを学び、  
脆い身体で一つの街を抱き、  
街の中の血と涙をじっくりと見つめた。

灰は、燃え尽きた後に残る空白。  
私たちがかつて立っていた大地に、静かに降り積もる。  
雑音もなく、驚きもなく。  
根茎のように這いながら、伸びる時を待つ。

希望とは、咲き誇る花ではない。  
それは闇の中で待ち続け、  
岩の隙間に宿る苔のように、  
柔らかくも、しなやかに強く、  
やがて絶望という頑固な岩を侵食していく。

残された息の間で、  
種は雨水を待ち続ける。  
再び芽吹き、声なく初志を担う。  
もはや燃え盛る炎はない——  
私たちは根を張り、芽吹き、存在する。

/

## 平衡 \_\_ Liam

人が私の中の陽光だけを見て、私の傷を否定することが怖かった。  
他者の期待が大きくなるたびに、  
私は「自己破壊」モードを起動し、  
自分を他者に委ねては  
「私には資格がない」と言っていた。

やがて、私は自分が暗闇に沈むことを許し、  
泣き続け、自己嫌悪に浸り、放縦になった。  
思考はラッシュアワーの金鐘駅乗り換えホームのように喧騒に満ち、  
押しつぶされそうなほど混雑していた。

このプロジェクトに参加したとき、私は自分に——「静」を選んだ。  
書道家の Jonathan は私に——「囂」という字を与えた。

「静」とは一人でいるときの自己——

回避し、不安に揺れ、自分に溺れる姿。

「囂」とは、無理をしながら世界に自分を証明しようとする私。

闇と陽光、抑うつと喜び、自己卑下と自信、すべてが私だ。

本当のバランスとは、囂でありながら驕らず、静でありながら逃げないこと。

かつて私は「静若止水(水面のような静けさ)」が終着点だと思っていた。

しかし真のバランスとは水面のような静けさではなく、

風が水面を吹き渡ることを受け入れる勇気を持ち、

自分が漣を立てることをも恐れずに、

それでも、もう沈まないこと。

囂であれ、静であれ、

私はついにそのすべてを自分自身のものとして取り戻し、

もう誰かのために演じることをやめた。

※ 本作の原題は「囂と静」であったが、現在は「平衡」に改められた。